

第4章 地域での市民・事業者の取り組み

1. 環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが鍵となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の取り組みを報告するものです。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、知る、考える、行動するきっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

環境基本計画では、市内を6つの地区に分け、各地区ごとに目指す環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

その地区の皆さんの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議です。

環境市民会議は、市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織で、平成14年7月に設立して5年目を迎えました。

この計画の「地域行動編」は、この環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するためには、地区内の町会・自治会や各種団体との連携はとても大切です。

【環境市民会議6地区の区域】



中央地区環境市民会議

中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

私たちが行った調査では、水質や大気が年々改善されている反面、NO_xの濃度が一部環境基準を上回っていたり、河川への不法投棄がいまだに見られます。

八王子の玄関口である八王子駅周辺の放置自転車やたばこのポイ捨てはキャンペーンや規制・監視等により良くなりました。

活動を重ねることにより、ごみの減量や省エネルギーに対する地域の方々の意識が高まり、関心をもってもらえるようになりました。

活動内容

環境フェスティバルでは、各部会が協力して出展し、多くの市民に中央地区環境市民会議の取り組みを紹介することができました。

■ 河川環境

浅川巡回パトロールを積極的に実施し、会員に内容を報告するとともに、必要により関係行政への報告と対応を要請しました。

中央地区の重点課題である浅川清掃活動は、河川敷を重点に12月には浅川大橋から浅川橋間を、3月には浅川合流点の川口川中野橋下（子どもたちが魚釣りや魚の群れを観察する場所）を、1回ずつ実施し、一般からの参加も含め25名以上の参加を得て大きな成果がありました。関係町会への

告知や管理行政への実態報告と対応の要請を行いました。河川環境は一地区だけで解決するものではありませんが、下流への影響を少しでも減らし、より良い水辺環境を確保し、誰もが親しめる浅川であるよう、これからも地道に努力していきます。

また、6月3日に全国一斉水質調査に参加し、浅川の浅川大橋と鶴巻橋直下の地点で水質調査を行った結果、水質は年々改善され、2地点とも「COD (mg/l) 1～2」でした。

10月22日に浅川の外来植生（アレチウリ、オオブタクサ、キクイモ）の分布調査に参加し、浅川大橋から浅川橋間の調査で、アレチウリは確認できず、また、多摩川・浅川の分布は前年度に比べアレチウリ・オオブタクサの繁茂が大きく減少していました。アレチウリの減少は、台風の影響や猛暑のため生育が悪かったことなどが推測されています。

7月29日には、八王子浅川ガサガサ探検隊のイベント（八王子浅川子ども水辺協議会）に会員が活躍しました。また、9月16日に自然体験講座「第3回浅川ふしぎ探検」を企画しましたが、台風の影響で残念ながら実施を見送りました。



環境フェスティバルへの参加



3月川口川中野橋下の清掃活動参加者

■ 大気汚染

大気汚染の測定を基本的には18町会34ヶ所について行ってきましたが、主要幹線道路である16号大和田小交差点南東南西のバイパスと20号バイパス大横町交差点に環境基準値を超える0.06ppm以上のものが発見されました。一般住宅地の道路は低い値となっていました。

■ まちのみどり・まちの美観

「まちなかウォッチング」では、甲州街道から千人町西八王子駅付近のイチョウ並木通りは素晴らしいと感じました。次に、街中に入ると、アーケードはなくなりました。電柱の地中化や歩道整備は済みましたが、緑が少なく残念です。東方（明神町）に入ると多少の街路樹は大きくなり目を引くようになりました。八王子駅北口前の桑並木通りの樹木が大きくなると、緑多き公園通りに貢献すると思われます。再開発中の駅南側では、民地での緑が減少傾向にあるが、2、3年後には八王子駅の南北周辺を含めて、八王子のイメージアップに貢献できればと期待します。



土の中のむし探し、子どもたちも真剣

公園が少ない中央地区では、個人の樹木や生け垣の緑化への努力が見られます。地域での緑化意識を高める活動の支援をする道路・公園のアドプト活動は成果をあげています。

11月25日、自然体験講座「富士森公園で土の中のむし探し」ではルーペを使用し、親子の参加を含めて総員33名を3グループに編成し、盛況でした。公園内の中の生物観察は、土壌動物を使った「自然の豊かさ」の診断です。広い富士森公園ですが、限られた場所での虫探しでした。

参加者からは、「自然にふれあうだけでなく、地中の虫の種類と数での環境基準が分かることが、たいへん有意義な内容でした」という感想をいただきました。

講師には、八王子環境教育研究会の西条さん、高尾さん、飛田さんの3名をお迎えしました。

■ ごみの減量・資源循環

中野、子安、台町、大和田の市民センターまつりをはじめ、みずき通りフェスティバルや環境フェスティバル、いちょう祭りや暮らしの見直し展等のイベントに参加し、「ごみを減らそう」環境コーナーを設け市民に正しいごみ分別の情報やごみの出にくい生活の話をし、環境の豆知識が得られるような環境クイズを行いました。

また、エコひろばでは定期的に環境学習見学体験ツアーを行い、多くの市民が清掃工場の見学とごみ分別体験を行いました。



環境コーナーでクイズをする市民

■ 地球温暖化

北野のあったかホールにある環境学習室「エコひろば」を中心に地球温暖化防止のための省エネルギー教室を8回実施し、58名の参加者があり、今の地球がかかえている問題を映像等により分かり易く説明しました。

私たち一人ひとりに何ができるのか、行動例を挙げて説明しました。



北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

北部地区は加住北、南丘陵に挟まれた谷地川が流れており、この水質は下水道の整備に伴い改善されてきています。未だ中流、上流域の各家庭の下水道接続は一部未了ですが、上流部のきれいな水に棲む生物が下流域でも見られ、また、カワセミ、サギ類、カモ類も良く見られる様になりました。

みどりの拠点である滝山公園、小宮公園、粟の須緑地の保全を関係団体と協力して行っており、中でも滝山城跡に於いては城郭の歴史を探り、環境保全を行う目的で下草刈りを行っている他、独自に作成したガイドマップにて啓発活動に努めました。

活動内容

■ 水

八王子の最も北側を流れる谷地川は、北部地区の中央を横断する全長12.9kmの川です。

その谷地川の水質（COD値）と水生生物を月1回調査し、生物と水質の関係を確認しました。

毎年度末にまとめた結果を地域に発信し、地域の皆さんに関心を持っていただき、谷地川の水質の改善につなげていきます。



落合橋付近で確認できた魚「オイカワ」と「げんごろうぶな」



千畳敷より山の神郭を望む

■ みどり・生き物・景観

「滝山城跡群・自然と歴史を守る会」と協同し、滝山城址の景観を保護するため藪払いを行っています。藪払いを行った結果、新たな遺構が見つかりました。これについては今後、同会が主催するシンポジウムにおいて城郭研究家が詳しく報告する予定です。

八王子のルーツである滝山城址の歴史的価値を広く市民に知っていただくため、探索会なども計画しています。

■ ごみ

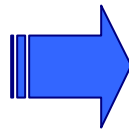
「9月、12月、3月」に市内の町単位（5～8町）で、不法投棄の巡回パトロールを実施しました。

毎回、同じコースを回り、不法投棄の状況を調べました。その結果、投棄が行われる場所の傾向がつかめました。また、調査の結果を市に報告し、撤去を依頼することで、徐々に改善の方向にあることを確認できました。

戸吹落合橋付近



H19年11月27日



H20年4月2日

■ 大気

簡易カプセルによる NO_2 の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に、22～24ヶ所で夏・冬の2回実施しました。

住宅地では環境基準値を下回っていますが、交通量の多い国道16号や同バイパス、国道20号では大きな値となっていました。

この大気測定結果を各地区の環境市民会議と協同して全市的にまとめ、反映させていかなければと考えています。

■ 環境教育

温暖化、資源、エネルギーの問題は地球規模の問題であり、一市民団体が直接取り組めるものではありませんが、それを絶えず意識して身の周りの自然環境を注視、観察し、その変化に対応して良いと思われる事をやって行く事が大事と考えます。

小さい時から自然環境に関心を持ち、変化を気付かせるには感性を養い、科学の好きな人材を育成する必要があります。

その一環として、小宮小、由木東小他4年生の総合学習（環境教育）を支援しました。



総合学習（環境教育）の様子

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

醍醐丸、陣馬山、影信山、今熊山とそれに連なる丘陵地は地域を分断するように市街地に向かって伸び、古来より発展してきた地域では歴史・文化も数多く残り、豊かな自然に恵まれ多様な生態系が形成されています。

しかし、大規模開発や農林業の高齢化と後継者不足で森林の荒廃や農地の宅地化が急激に進み恵まれた自然環境も大きく改変してきています。

地域を流れる醍醐川、案下川、大沢川、城山川、小津川、山入川、川口川などは浅川の源流域として重要な支流に位置付けられています。市街化区域では水質悪化が大きな問題になっていましたが、下水道整備と市民の環境意識が高まり、徐々に水質改善が図られています。

その一方では、自然地の保水力や浸透性が低下して湧水の枯渇や河川流量の減少に影響を及ぼす事態が懸念されています。

また、不法投棄についても見通しの悪い地域には相変わらず不法投棄が行われ、町会・自治会・行政への働きかけや連携が必要になっています。

なお、市域の40%という広大な面積を抱えていることから、19年度から、恩方、川口、元八王子の3地区に分け、各々の地域特性を活かした活動を行っています。

活動内容

■ 自然体験講座

12月に「晩秋の今熊山と金剛の滝を巡る不思議体験」を実施しました。今熊山とその周辺の歴史や文化を探り、豊かな自然の移り変わる様子や神社に残っている伝統文化を紹介しました。取り組みは町会、神社、地域協力者などと連携し計画立案を行い、参加者はスタッフを含め総勢で100名を超えました。

今後は、一人でも多くの市民が環境市民会議の活動に参加できる取り組みを積極的に進めていきます。



自然体験講座

■ レジ袋削減とマイバッグ普及に関する意識調査（川口地区）

11月3、4日の両日に行われた川口やまゆり館まつりでは、レジ袋削減とマイバッグ普及のキャンペーンを実施し、レジ袋削減アンケート調査を行いました。レジ袋削減アンケートは午前中だけでしたが、139名から貴重な回答が得られました。回答は50～70代の女性が8割を占め、買い物袋を持参するが65%、時々持っていくが26%となり、一定の浸透がうかがえ、環境に配慮して購入しているという回答結果でした。



レジ袋削減キャンペーン

■ 里山回復と自然体験できるフィールドづくりの活動(川口地区)

荒廃した里山回復に着手して3年目、谷戸田で体験活動のプログラムづくりを兼ねて田植えから収穫までを体験することができました。収穫作業では川口中学校「ふるさと学習室」に保管されている足踏み式脱穀機、千刃こき、唐箕を使った体験でした。

収穫量は粳で50キロあり、精米した23キロを「早春の里山歩きともちつき体験」で使用し、川口小学校の児童40名、PTAと協力者20名、中学生も加わった総勢100名ほどの「もちつき体験」を行いました。



もちつき体験

■ 大沢川のクリーン活動(元八地区)



清掃に参加された地域の方々

八王子市に16本の主要河川があります。この中で一番汚れているのが大沢川です。(2005水環境全国調査による)

元八地区では、この不名誉な状況を解消すべく「大沢川クリーン活動」を立ち上げ、地域住民と協働してクリーン化に取り組みました。

まず、川の汚れ実態の把握から着手し、9月に大沢川の主要地点でCODの測定を行ったほか、ごみ投棄の現状を巡視しました。その結果を「環境レポート」として地区連合町会を通して全戸に回覧しました。

第1回目の活動では、3月に大沢川クリーン活動を行い、地域住民や関連団体を含め約50名の協同作業により、約11m³のごみを回収することができました。

一方、地域のクリーン活動では“下げ坂ごみZERO運動”を継続し、下げ坂隣接町会有志の協力により、5月は6名で約6.5m³、9月には参加者7名で約8.5m³の不法投棄ごみを回収しました。

これからも実践重視で快適環境づくりに継ぎたいと考えています。

■ ホタル保存会の活動(元八地区)

3年前、城山小学校東側の小川でホタルが発見されたことをきっかけに、元八王子二丁目町会、城山小学校関係者の有志で「城山小地区ホタル保存会」が発足しました。

保存会の活動は、地域住民との協同で、5月と9月に川掃除、6月にホタル勉強会と鑑賞会を開催し、子どもたちにも自然を大切にする意識を啓蒙しています。

19年度は八王子市「子ども体験塾事業」に「親子でホタルを増やそう」というテーマで応募し、助成金を得たことから、水槽を購入し、城山小学校通学児童10組の親子にカワニナの飼育体験をしていただきました。

これからも地域の貴重な財産であるこの環境を守りたいと考えています。



観察会に参加した子どもたち

■ 恩方地区湧水マップの作成(恩方地区)

15年度に東京都が調査し作成した東京湧水マップに基づいて、7月に恩方地区において湧水の現状調査を行いました。

その成果として、湧水とされる6ヶ所をまとめた恩方地区湧水マップを作成し、市の環境学習室『エコひろば』において展示している市域の湧水マップに取り込みました。



西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの大気汚染、一部河川の汚れ、車の入れる山間部における不法投棄など、取り組まなければならない問題を抱えています。また、現在建設中の圏央道による環境への影響が懸念され、騒音、大気汚染及び動植物などの自然環境を監視していく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考え、身近な自然や文化遺産等を市民の手で保存・展示し、学んだりすることのできる「エコミュージアム構想」に取り組んでいます。また、現在市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して、市長宛に意見書を提出し、積極的に働きかけています。

地域の啓発活動にも力を入れており、市民センターまつりで取り組み課題を展示し、いちょう祭りでのごみ分別指導など、積極的に進めているところです。

活動内容

■ 高尾山の保全

3年目になりますが、高尾山から蛇滝、小仏川沿いにかけて、「指標樹木」15本の樹勢調査（3月）、日影沢の水生生物調査（10月）及びセッコク（6月）やシモバシラ（1月）の観察会で高尾山の環境変化を追跡しております。その際、目視観測や写真にて記録しています。



2006.03 撮影



2007.03 撮影



2008.03 撮影

■ エコミュージアム

地域の宝を掘り起こし、再認識しようと、初沢・狭間町の西部地域（4月）、寺田・館町の南部地域（9月）、めじろ台周辺の中中部地域（12月）で地域の宝起しウォーキングを一部、一般市民の参加も得て実施しました。

その際、それぞれ前もって下見をし、コース案内図と地域の宝ガイドを作成し、当日、参加者に配布しました。20年度は北部地域で行う予定です。

「エコ・ミュージアムマップ」の『市街編』と『高尾編』を一部修正しました。

■ 里山保全

宝起しウォーキングの際、寺田・館町の里山の景観、規模、状態を写真に記録しました。また、緑地保護地域の増加を目指して、里山の現状、関連の法律、条例を調査しました。

「池の沢に蛍を増やす会」と協同で下草刈りや植樹等の里山保全活動を行いました。市民や子供たちに里山の素晴らしさを体験してもらう「蛍観察会」（6月）、「子どもみどり体験八王子」（7月）、「自然体験講座」（10月）、「野鳥観察会」（3月）を「池の沢に蛍を増やす会」と共催で実施しました。



■ 「高尾の里拠点施設」

4月16日、八王子市都市計画室宛に「高尾の里拠点施設基本計画」（素案）に関する意見書を提出しました。また、9月28日には八王子市長宛に「高尾の里拠点施設基本計画」に関する要望書を、高尾の自然科学博物館を考える会（以下「考える会」という。）と連名で提出しました。

3月25日、八王子市長宛「高尾の里拠点施設等基本設計(案)」に関する要望書を考える会と連名で提出しました。

■ 流域の水質調査

南浅川水系の案内川・小仏川・初沢川・南浅川と湯殿川水系の大船川・殿入川・湯殿川の2つの水系があり、この他にめじろ台の地下水が源流となっている山田川があります。毎年6月と12月には20ヶ所で簡易カプセルによるCODの測定を行っています。測定を開始した2003年頃はCOD：0～1（綺麗な水）は僅か2～3ヶ所しかありませんでしたが、2007年度の測定では綺麗な水は14ヶ所に増え、案内川や小仏川では小魚の影も多く見られるようになりました。これらの水質の浄化は、下水本管工事と各家庭の接続工事が完了した結果が大きく寄与していますが、殿入川上流の上館地区の本管工事が遅れているため、COD：4となっています。

湯殿川の和合橋の大修復工事が終わり、上流の川幅拡大工事が進んでいますが、従来のもので護岸されていた湯殿川の景観が失われて行くのは誠に残念なことです。

近年は水質改善と水辺の保全活動の成果で、いたるところでホタルの飛び交う光が多く観られるようになり、市民のホタルに対する関心度も高まり、殿入中央公園のホタル観察会にも大勢の方達の参加がありました。西南部地区全体がホタルの名所になるよう、保護活動に努めていきます。

■ 大気汚染測定

高尾周辺の町田街道や甲州街道は相変わらず二酸化窒素は0.05ppm前後を記録し、最近では法政大学に通じるバス道路の数値もそれに近づいてきました。それ以外の地区はほぼ0.03ppmを維持しており大きな変化はありませんが、今後中央道と圏央道の接続で裏高尾地区の二酸化窒素がどのように変化するのか？高尾山トンネル工事の土砂運搬車の増加で高尾地区の渋滞と汚染がどのようになるのか？西南部地区の大気が目まぐるしく変化することは確実です。

車社会における汚染対策は、行政の抜本的な施策の上にたって取り組まないと、いつまでたっても汚染は改善されません。八王子の幹線道路周辺がいかに汚れているか？市民のみなさんに汚染の実態を周知するには、環境市民会議だけの力ではなかなか難しいものがあります。



いちよう祭り会場

■ ごみ減量

ごみ量の削減に関する知識や情報をパネル化して、浅川、長房、横山南の市民センターまつりや環境フェスティバル等でごみ削減の啓発活動を行いました。また、地球温暖化防止にもつながる“炭”を利用した生ごみの堆肥化に関連して、実践している“やまぼうし活動”と鈴木牧場、明星大学を見学し、その普及に努めています。

11月のいちよう祭りでは、環境委員会を主管し、都立八王子桑志高校の生徒210名を指導し、32万人の来場者と300出展団体にゴミ分別と意識向上に努め、資源物の回収を行いました。（実績：可燃約3トン、不燃物12m³ほか）更に、日常生活において楽しくごみ削減が経験できる、エコレシビの実習も継続実施しています。



エコレシビ

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状 「ふるさとの八王子を美しい街に」

東南部のみどりは、ニュータウン開発などで減少し、東南部の緑地面積率は、昭和62年の60%から平成14年の44%になり、16%も減ってしまいました。一方、斜面緑地の指定は5区域で7.9haに上りました。大規模開発の周辺域での小規模開発が景観に影響を及ぼしています。みどりの連続性の確保が急がれます。

東南部の河川の水質は、少しずつきれいになってきていますが、「やや汚れている」を示しています。下中田橋では、「大変汚い」COD値8を示しています。一旦汚れた川をきれいな水にする事は並大抵ではなく、大変な努力と時間がかかります。

定期的な道路や川の清掃活動も芽生えつつあります。打越中学校や日本水産(株)による清掃活動の成果は、きれいさ評価のデータ上でも顕著に現れています。湯殿川の定期清掃にも取り組み始めました。

大気汚染としてNOx測定を行っていますが、2008年度は中央線高架下を含め、全4回全てで、基準値を満足しました。しかし、当地は道路整備工事中・有料道路の無料化などで交通量増加が予測され、測定の継続が必要と思われます。

活動内容

■ 環境学習・啓発活動

夏休みに都立片倉高校の1年生10名と『奉仕体験活動一環境分野』を行いました。通学路のきれいさ評価、湯殿川の水質調査や河川清掃、大塚山公園の雑木林の清掃と保全、そして今年から大気汚染測定も取り入れ実施しました。環境についての実体験が、その後の清掃活動のクラブ活動を立ち上げるきっかけになりました。



10月に宇津貫・片倉むかし道コースで秋の自然体験講座を行い、参加者40名(子供21名)、スタッフ28名の計68名で大盛況でした。クボノオキ湧水では「谷戸のくらし」や「わき水のふしぎ紙芝居」、宇津貫緑地では雑木林の中で笹刈りやヒノキの丸太切りを体験しました。



参加者からは、「私たちが住んでいるこんな近くに色々な自然があることを知って良かったです。いろんな世代の方々と話しできたのも良かったです。」「いろいろな体験ができて良かったです。」

コースターづくりが特に楽しかったです。鳥や植物の名前をたくさん覚えることができました」と感想をいただきました。6月の環境フェスティバル、10月の由井市民センターまつり、11月の北野市民センターまつりで東南部の環境啓発を行ったほか、2月には、打越中の環境学習の支援を、また、3月にはエコひろばの春休み企画で「スーパー竹とんぼ教室」を行いました。

■ 河川・水質

4月、6月（全国一斉）、11月に、浅川、山田川、湯殿川、兵衛川など計11ヶ所の定点の水質調査及び河川環境を調べました。



6月には由井二小と由井三小の水質調査の支援を行いました。

4月の浅川・湯殿川一斉清掃、9月の『八王子市みんなの川の清掃デー』、6月と12月には、片倉駅周辺の湯殿川と兵衛川の美化清掃活動を行いました。今後、流域町会の片倉町会、長沼町会、打越町会との連携を深めていきます。2月には打越中の環境学習－水質調査を支援しました。



■ みどり・歴史景観

片倉台自治会のみなさんと、絹の道の拠点の大塚山公園や御殿山尾根道を美しくする活動を行い、八王子周辺や都心から訪れた人に東南部環境市民会議製作の絹の道ハイキングマップ片手に絹の道の散策を楽しんでいただきました。里山のごみ不法投棄については、引き続き監視していきます。

■ ごみ分別・収集・リサイクル

市のごみ組成分析に立会い、データを分析、分別徹底の啓発資料を作成しています。紙ごみの資源混入率を5%以下にすることを目標にしていますが、市全体としては、可燃物の紙資源混入率は20%以下になったと思われます。入手したデータからは、家庭系可燃物の地域別紙資源混入率は5～25%、事業系の規模別紙資源混入率は5～60%とかなりばらついています。重点的な調査対象・調査数を定めて紙資源混入率を調べ、そのデータを有効に使うことはごみ減量に大いに役立つと思われます。

組成分析データの分類はかなり細かく、分別徹底を図る目的には資源混入率のみを調査すればよいので、費用対効果の観点から取り組むことが望ましいと思われます。

■ ごみのポイ捨て・都市の美観

19年1月から歩きたばこ禁止条例が施行されました。東南部地区（北野・由井事務所管内）の6駅周辺道路19ヶ所でのきれいさ評価（ごみ拾い、分類、カウント）は5年目で、条例への期待は大きいものがあります。条例周知のポスター掲示、直射日光で退色したポスターの張替えを実施しました。データ上は条例の効果は、まだ顕著ではありません。

たばこの吸殻は、信号機周辺、橋の上など、人がちょっと立ち止まるところに多く、ポイ捨ては植え込みや水抜き穴の中が目立ちます。

打越中学校や日本水産（株）による団体清掃活動の成果はデータ上にもはっきり出ています。

駅はまちの玄関であり、利用する人みんなできれいにしたいものです。

■ 大気・騒音

年4回のNOx簡易測定データでは、問題視していた、国道16号線バイパス周辺（特に打越交差点及びJR中央線ガード付近を含め、全地点で環境基準値内でした。しかし、この地域は現在道路整備工事の最中であり、また、有料道路の無料化の話もあり、今後、益々交通量の増加・渋滞の増加が予想されるので継続的な測定が必要と考えています。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

東部(由木)地区の南側は多摩ニュータウンとして、又、北側は多摩丘陵が東西に走り市の特色としてのみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。残された里山を守ろうと、多摩ニュータウン「最後の未開発地」とされる八王子市堀之内地区、多摩ニュータウン開発予定地の「19住区」で山林のまま残されてきた面積5.2ヘクタールの場所が、「多摩丘陵の動植物保護」を目的として、事業主体の「(独)都市再生機構」によって、山林を保全し、自然を残した形で「寺沢里山公園」として整備されています。

大気と河川の水質については、八王子市全地区に関わることであることから、今後も継続して、NO₂の測定及び水系マップの作成を関係団体と連携して行っています。

活動内容

■ 自然環境

自然環境を保全・再生・支援するために、由木地区の巨木調査を3年前から行っています。

今年は『自然体験講座』に取り上げて、11月25日(日)の午前9時30分に、南大沢駅前の「中郷公園」に集合し、南大沢八幡神社の「オオツクバネガシ」をスタートに、八王子市指定の松木にある吉田隆治氏屋敷の「サルスベリ」をはじめ、8ヶ所の巨木巡りをしました。

また、「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春と秋の2回、『自然観察会』も実施しました。



大塚神明社跡「イチヨウ」
(市天然記念物)

■ ごみ・資源・エネルギー

「南大沢駅前の喫煙マナーアップキャンペーン」

20年4月から南大沢駅が『路上喫煙禁止地区』に新規指定されるのに先立ち、3月30日(日)、午前9時45分から黒須八王子市長の挨拶の後、午前10時から約1時間半にわたり、京王線「南大沢駅」前の遊歩道を中心に、関係市民団体を含め、環境市民会議のメンバーとその関連組織のメンバー等が参加し、「南大沢駅前の喫煙マナーアップキャンペーン」を実施しました。また、不法投棄は、わずかに減少傾向が見られるようですが、不法投棄を一層減少させるためには、継続的な市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

なお、南大沢市民センターまつりにおいて、最新のごみ問題・リサイクル関連情報の展示と説明による減量啓発キャンペーンを行うなど、住民の関心を高める活動を続けています。



南大沢駅前の喫煙マナーアップキャンペーン

■ 環境にかかわる実践活動

八王子市堀之内の“寺沢里山公園”の整備計画が発表されたことから、今年も「八王子市堀之内町会」と「(独)都市再生機構」の共催で、『寺沢里山公園市民参加型管理講座』が、7月8日(日)から12月9日(日)まで5回開催され、里山保全の活動がスタートしました。

また、隣接する「19住区東山地区」についても5割の緑を確保することになりました。



「刈払い機の操作実習」



「御 殿 橋」

■ 河川・水質

今年も、6月に「全国水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などと協力して、水質調査を実施しました。

そのほか独自に、環境診断士のグループによって、3ヵ年計画で、大栗川と大田川や由木地区の池6ヶ所の水質の実態調査を行うとともに、機会を捉えて地域住民の方々に対し水質汚濁の原因を作る有機物や有害物等を含む生活排水を抑制するよう啓発していきます。

■ 大気汚染

毎年、6月と12月の2回、都内全域における NO_2 の調査を他の環境市民会議と協力し、データの収集を行っています。

今年は、5月31日から6月1日にかけての「第60回 NO_2 全都一斉測定」と、12月6日から7日にかけての「第61回 NO_2 全都一斉測定」に参加しました。

その結果の数値については、原因と結果の分析が必要と思われます。

これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

また、自動車やバイクについては、アイドリング・ストップの励行、低公害車の購入・使用、ディーゼル車の排出ガス規制などを広く啓発していきます。



「南多摩斎場入口」交差点

地域行動編評価一覧

環境基本計画における地域行動編の19年度の活動について、6地区の環境市民会議が各々内部で評価したものを、環境推進会議で相互に評価するものです。

【中央地区環境市民会議 総合評価】

＜環境市民会議での内部評価＞

各部会、役員会、定例会の定期開催を軸に、環境学習・リサイクル推進協議会、環境推進会議、市職場の環境マネジメントシステムへの支援や環境フェスティバルへの出展に尽くした。

また、河川のパトロールに重点をおき、川の環境保全のため行政機関などと連携を深め、八王子浅川子ども水辺協議会の活動も活発に進められた。

大気汚染については、34ヶ所での測定をデータ化した結果、汚染状況は幹線の交通渋滞などにより基準値を上回っているが、その他は低くなっている。

まち中の環境ウォッチングの回数を重ねることにより、データ化しているが、目標は達成されていない。きわめて少ない緑被率を向上するため、公園や街路樹を増加させたい。

路上のごみやたばこのポイ捨ては少なくなっており、町中はきれいになってきた。

ごみの減量化、資源循環、地球温暖化防止など、各地区での環境コーナーが頻繁に繰り返され、エコひろばでの教室も大きな成果を上げてきたと思う。

＜環境推進会議での評価＞

河川環境については、浅川の巡回パトロールや清掃活動に熱心に取り組んでいるほか、水質調査、外来植生分布調査も行っている。また、八王子浅川子どもの水辺協議会への参加など、川に対して幅広く活動しており、今後も更なる活動の工夫をお願いしたい。

他にも、ごみの減量・資源化の取り組み、道路・公園アドプト活動など、まちをきれいにする取り組みについても成果がでており、地球温暖化防止の省エネルギー教室の推進も含め、より良い環境づくりに向け、今後も継続して活動していただきたい。

【北部地区環境市民会議 総合評価】

＜環境市民会議の内部評価＞

水・大気分野では独自に継続的な測定を実施しデータを蓄積中で、今後の分析や、環境の改善策を行う際に役立つものと思われる。

他の分野については、数名の会員では独自の行動を行うのは難しい面もあり、エコひろば活性化委員会、もったいない委員会、湧水マップ作成委員会、八王子に清流を取り戻す市民の会、八大緑遊会、滝山城跡群歴史・自然を守る会、学校における環境教育等々に協力し積極的な活動を行った。

各人が、最も得意とする分野で活動し実績を上げるのは、効率的であり価値あるものと思われる。

＜環境推進会議での評価＞

滝山城跡の保全については、下草刈りや独自のガイドマップでの啓発など、積極的な活動を行っており、引き続き実施していただきたい。

また、不法投棄のパトロールでは、着実に効果が表れており、今後も良好な環境に向け実施していただきたい。

水・大気等の調査についても、効果があり継続して実施していただきたい。

学校をはじめ、他団体との交流を深めながらの環境教育活動は、大変有効であり、継続的に実施していただきたい。

【西部地区環境市民会議 総合評価】

＜環境市民会議の内部評価＞

川口・元八・恩方の地域特性を生かしながら、町会・自治会、学校と連携した取り組みが少しずつ具現化され成果を出してきた。地域間では、組織力や活動内容にはばらつきと不安定要素も見られるが、このことは環境市民会議の在り方、組織、活動に関する周知方法等に問題があることも分かってきた。

活動は地域が一丸となり、取り組みできるテーマでなければ多くの協力を得ることはできない。また、活動には成果が目に見える形で表現できなければ活動の行き詰りや達成感が薄れ、継続的な活動は困難になる。いま、多くの課題を一つ一つ解決しながら、地域に根差した活動のあるべき姿、地域力を高める活動テーマを模索しながら取り組みを進めている。

これからの活動には、町会・自治会・学校及び地域事業者と連携した取り組みは最重要と位置づけ、そのための情報発信や会員増強に向けての取り組みを図りながら、新たな活動に向けての基礎固めを進めている。

＜環境推進会議での評価＞

里山の回復、大沢川のクリーン活動、ホタル保存会の活動、恩方地区湧水マップ作成など着実に成果が上がっており、今後も引き続き継続していただきたい。

また自然体験講座は、地域の人達もまき込み大変盛況であった。今後とも工夫を重ね、積極的に推進していただきたい。

今後も、町会・自治会・学校及び地域事業者が一丸となって、地域の良好な環境づくりに向かって取り組んでいただきたい。

【西南部地区環境市民会議 総合評価】

＜環境市民会議の内部評価＞

自然環境の分野では、エコミュージアム構想に基づくマップ「市街編」と「高尾編」を完成させ、更に「地域の宝」の掘り起こしを進めている。圏央道の建設に伴う環境変化を観察するため高尾山の環境指標樹木を設定し写真による観察記録を継続している。里山保全については、館町緑地（池の沢）でホタル観察会、自然体験講座や企業研修を実施し、一定の成果を得た。

市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して市長宛に意見書を提出し、多くの人に親しまれる魅力ある施設とするよう働きかけた。

河川の水質検査と大気汚染測定、また、水質改善に伴う蛍の復活調査を行い、その結果を市民センターまつりで展示し好評を得た。

ごみの減量に関連して、公園の落葉の堆肥化の模範を示したり、炭を利用した生ゴミの堆肥化を実践している施設を見学し、市民センターまつりでは生ゴミなどの情報を展示した。また、いちょう祭りでは都立八王子桑志高校の生徒を指導して、ごみの分別の意識向上に努めた。

＜環境推進会議での評価＞

高尾山の保全や里山の保全活動、「地域の宝」の掘り起こしなど、積極的活動を展開し、成果も得られている。引き続き多くの市民・事業者をまき込み、着実に推進していただきたい。

また、ごみ減量の取り組みは、市民センターへの展示や施設の見学、いちょう祭りでの高校生の指導と幅広く活動しており、今後ごみ削減に向け、積極的に取り組んでいただきたい。

今後も地域の良好な環境づくりに向け、様々な取り組みを推進していただきたい。

【東南部地区環境市民会議 総合評価】

＜環境市民会議の内部評価＞

環境学習・啓発活動では、片倉高校の奉仕活動支援や打越中学校の環境学習支援としての河川水質・大気汚染測定、森林、歴史と自然の体験など地域の教育力向上の手懸かりとなった。

また、自然体験講座は、新規に宇津貫・片倉コースを開発し、成功した。今後、地区内各所に広げていく。

河川水質は少しづつきれいになってきている中、河川清掃を通じて、親しみやすい川づくりに取り組んでいきたい。

みどり・歴史景観では、2つのアドプトは近隣自治会と連携し、活動している。

ごみ分別・収集・リサイクルでは、組成分析データから、いろいろなことが分かってきたことから、今後、一層のごみ減量に資するためには、資源混入率を主目的にした、調査のしくみづくりが重要と考える。まさに、市民・事業者・行政の協働が問われる課題である。

ごみのポイ捨て・都市の美観では、学校・事業者による定期清掃の結果が「きれいさ評価」からも読み取れる。道路沿いの家屋・事業所等が共同して周囲をきれいにする環境にしたい。

路上喫煙防止条例の効果がまだ出ていないことから、今後の課題として取り組んでいく。

大気・騒音では簡易測定結果に安住せず、今後の交通量変化を視野に測定を続けていく。

＜環境推進会議での評価＞

高校生との奉仕体験活動（環境分野）は、その実体験が清掃活動のクラブ活動を立ち上げるきっかけとなるなど、学生にいい影響を与えており、引き続き支援をしていただきたい。

自然体験講座、市民センターまつり、中学校への支援など、着実に成果がでており、継続していただきたい。

また、清掃活動が中学校や事業者にも広がっており、今後も輪が広がっていくよう積極的に取り組んでいただきたい。

今後もテーマでもある「ふるさとの八王子を美しい街に」を目指して努力していただきたい。

【東部地区環境市民会議 総合評価】

＜環境市民会議の内部評価＞

自然環境では、里山づくりをはじめ、春・秋の自然観察会や巨木調査などの年間計画は達成できた。特に巨木の保全を目的に「自然体験講座」で取り上げ、南大沢八幡神社のオオツクバナガンから市指定の巨木3本を含めて8か所を巡り、市民の関心を高めた。

また、堀之内地区の寺沢里山公園の整備計画が発表され、地元の堀之内町会が主体となって「寺沢里山公園市民参加型管理講座」が開かれ、完成の大詰めを迎えた。

ごみ対策では、市民センターまつり等でのごみ減量啓発キャンペーンを実施したほか、20年度から「路上喫煙禁止地区」に指定される南大沢駅前周辺でのキャンペーンを行った。

環境にかかわる実践活動では、小中学校に対する環境教育支援活動の一環として「由木東小学校」で実施されたことから、地区内の小中学校においても、支援活動を活発化して行きたい。

河川・水質では、主要ポイントで継続的に実態調査し、他団体との関係・協力を継続する。

また、東部地域独自の“ちえっくどう難易度2、3”を用いた3年間定点観測は継続中で、20年秋に終了。大栗川上流部のCOD値は向上しているが、下水道完備の影響と思われる。

大気汚染では、主要幹線を中心に定点測定を実施しているが、多摩丘陵トンネルの開通による中大トンネルの利用も活発になることが予想されるので、更に測定点を増やして行きたい。

＜環境推進会議での評価＞

里山の保全については、地域と協働して取り組んでおり、良好な里山の環境保全に向け、引き続き活動していただきたい。

また、自然観察会や巨木調査など継続して実施していることは評価できる。

地域の現状を知るための、河川の水質調査、大気調査、不法投棄の把握などとあわせ、良好な環境づくりに向け、引き続き実施していただきたい。